

平成27年度 学校評価 総括表



清新 敬愛 力行

奈良県立西和清陵高等学校

平成27年度 学校評価総括表

奈良県立西和清陵高等学校

<p>教育目標</p>	<p>教育環境の整備を図り、活力と創造力をそなえた人間形成を学校教育全般で育み、地域との連携を強化し、社会人として「生きる力」を育成する。</p>		<p>総合評価</p>
<p>運営方針</p>	<p>(1) 地域と共にある学校づくりの推進 (2) 教職員全員による学校経営への参加 ①報・連・相の徹底 ②教える者自身が学ぶ (3) 学校教育の充実と生徒理解の推進 ①子供たちの可能性を最大限引き出す ②部活動の活性化、生徒会活動の活性化 ③学校行事の充実 ④総合的な学習の時間等、体験学習の機会の充実 (4) 広報活動の充実</p>		
<p>昨年度の成果と課題</p>	<p>本年度の重点目標</p>	<p>具体的目標</p>	
<p>学習面・生活面において、基礎・基本の習得に一定の成果を得ることができたが、今後さらに主体的に学習や諸活動に取り組む姿勢を、一層伸ばして教科間の教職員の連携・協力体制を強固なものとしていかなければならない。</p>	<p>・基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、確かな学力を身に付ける。</p>	<p>・基礎的・基本的な知識や技能を反復することで確実に習得させ、進路実現に向け自ら学ぼうとする力を身に付けさせる。 ・促進講座等を積極的に活用し、進路を実現する学力を伸長する。 ・スタディーサポートの結果を分析することで、学力と生活習慣の関連性を適切に指導する。</p>	<p>B</p>
	<p>・基本的な生活習慣の確立に取組み、社会に適応できる人づくりを目指す。(自らの進路を見据え、将来の夢や希望を持った生徒を育成する。)</p>	<p>・夢・希望・志を育み、目標を持たせる教育活動を推進する。 ・LHR 活動などをおして、自らの生き方や進路について考えさせるなど、キャリア教育の充実を図り、三年間をととした教育活動全般で、組織的・計画的に進路指導を行う。 ・高大連携による講義体験、模擬試験、資格取得を積極的に実施し、生徒の進路実現の意識を向上させる。</p>	
	<p>・正義感や責任感、連帯感を育み、豊かな人間性を育成する。</p>	<p>・道徳教育を充実し道徳性を養い、主体的に判断する力と適切に行動する力を養う。 ・ホームルーム活動での人権教育の充実を図り、常に誠意を持って人に接し、相手の立場に立ったものの考え方を育成する。 ・集団活動やボランティア活動また就業体験活動を通して、基本的な生活習慣やルールを身につけさせ、豊かな人間性を育成する。 ・学校や学年また学級行事の意義を周知させ、本校生としての連帯感を共有させ、実践力を育む。 ・清掃活動等の体験、奉仕活動を通して達成感、成就感、自己肯定感を育成するとともに、社会の一員としての自覚を醸成する。</p>	
	<p>・たくましい体力と強い精神力を育む。</p>	<p>・部活動を積極的に奨励し、1年を通じ入部率6割を維持する。 ・生涯にわたって運動を楽しむ力を身につけ、自らの体力向上に向けて目標を立て、主体的に取り組む力を育成する。 ・健康教育、安全教育、食育指導を充実する。 ・生徒会活動を活性化する。</p>	
	<p>・地域との連携を一層強化し、「地域と共にある学校づくり」を推進する。</p>	<p>・地域のボランティア活動を一層強化する。プロジェクトチーム、教職員、生徒会、家庭クラブ、部活動、学級活動の連携の強化を図り、地域を取り込んだ協働活動を実践する。</p>	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果 ・分析）及び改善方策	
学習指導	基礎・基本の学力の定着	・目的意識を高め学習意欲の向上を目指して、自主学習時間を1日1時間以上させる。目標達成率50%	C	B	・アンケート調査結果（%） 1年平日11.2、休日24.6 2年平日16.3、休日26.2 3年平日21.6、休日27.4となった。	・今後も更に授業展開方法の工夫や教材研究を行う。予習・復習や課題の提出等の指導だけでなく、進路実現に向けて、家での学習の重要性を認識させていく必要がある。	・学習習慣の定着の為に、家庭学習を促す取り組みがまだまだ不十分である。学習意欲を高める授業の工夫と改善について、研修や研究について取り組んで欲しい。
		・生徒が理解できる、分かりやすい授業を展開する。	B		・学校評価アンケート（保護者）によると、79.7%が本校の授業は分かりやすいと評価している。		
特別活動	ボランティア活動への参加・啓発	・募金活動、ボランティア清掃等への参加を増やす。	B	C	・地域のボランティア清掃や募金活動を実施した。生徒会、クラブ員を中心に多くの生徒が参加した。	・ボランティア活動への参加は今年度以上に積極的にできる可能性はある。あいさつ運動などではクラブ員を中心に構成し、元気なあいさつをもっと意識させたい。同時に部活動加入も促すようなアピールもさせていきたい。	・委員会活動を活性化し、学校行事の企画の段階で生徒の意見や考えを吸い上げ自主的な活動を増やしていく取り組みが必要である。 ・部活動に励む生徒は、学校の活性化の原動力である。入部率を上げる取り組みを期待する。 ・地域のボランティア活動に参加する機会が増えていることは良い。
	生徒会活動の活性化	・各委員会で行う内容を見直し、委員会活動から学校の活性化を促す。	C		・あいさつ運動などの実施はしたもの、実施生徒の積極性が足りず、成果が出るような内容には至らなかった。		
	部活動の活性化	・部活動紹介・体験を充実させ、加入率40%をめざす。	C		・年度末の部活動加入率は36.4%であった。男子は48%であるが、女子は26.5%と非常に低かった。		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	・遅刻指導対象者および指導内容を共通認識し指導する。昨年度の30%減を目指す。遅刻指導を通して健康への意識高揚を図る。	B	B	・遅刻数は昨年の20%増となった。遅刻に対する意識を高め連携のとれた遅刻指導を実施する。 ・全学年一斉の頭髪・服装点検を実施することができた。	・遅刻だけでなく欠席を含め健康管理、生活習慣を見直す指導を強化し、欠席・遅刻の減少を図る。 ・指導体制を見直す。 ・アンケート結果をHR展開するなど積極的に活用する。 ・生徒も教員もあいさつの認識を改める。みんなの問題として生徒に捉えさせ、取組ませる。	・遅刻や欠席を減らす取り組みも大切であるが、生活アンケート等から、いじめ件数について、担任が毎月経過報告や面談等を実施し、見守りながら対処していることについて、これからも継続した指導をお願いしたい。 ・駅等での生徒の様子は、以前よりは、随分良くなっているが、電車に乗り込む時のマナーは、降りる方が優先であるので、指導して欲しい。
	規範意識の向上	・生活アンケートを実施し自己認識を高める。また、全校集会等を通して集団意識の向上を図る。	B		・規範意識は向上しつつあるが、年度当初の校外指導の徹底と継続した指導により軽率な考えから起こる問題行動を防止する。生活アンケート結果の積極的な活用。		
	あいさつの励行	・毎朝の校門でのあいさつ運動、SHRを通して、コミュニケーションを意識させ、その能力の向上を図る。	B		・生徒自ら積極的にあいさつができるように全教員による指導を継続していく。 ・授業の開始・終了時のあいさつの実施を徹底する。		
進路指導・キャリア教育	進路希望の実現	・進路実現に必要な学力を養成するために、年間を通して促進講座を実施する。	B	B	・ほぼ予定通りの回数を実施できたが、学期を追うごとに参加生徒が減少した。	・進路実現に必要な実力を養成するために、授業と促進講座の関連性を持たせながら基礎学力の一層の充実を図る。 ・生徒の進路意識を向上させ、目標を設定させるために、進路ガイダンスの内容を検討し、事後指導を工夫する。	・進路の資料を保護者に見て頂くことの大切さ、特に1年の保護者の意識も高める必要がある。アプローチの仕方を変えることも必要だろう。 ・多様な進路希望を持つ生徒に対し計画的・組織的に進路指導関係の取り組みを進め成果をあげている。
	キャリア教育の推進	・職業人を招いての座談会、保育園実習などを4回以上実施する。 ・進路講演会、進路ガイダンスを、各学年で年2回実施する。	B		・職業人を招いての座談会のみ実施できなかったが、1・2年生については予定回数以上の進路ガイダンスが実施でき、多くの生徒が積極的に取り組んだ。		
	進路情報の提供	・「進路ニュース」を年6回発行する。 ・進路説明会やオープンキャンパスの案内、及び進路情報誌を適切に提供する。	B		・各学年に適切な資料を提示して進路情報を提供することができたが、活用の仕方にクラス間で温度差があった。		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果 ・分析）及び改善方策	
人権教育	人権意識の確立と仲間づくり	・人権HRの充実を図り、仲間づくり、ボランティア意識、道徳意識の向上を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・人権HRの指導案を学年を中心に作成し、各クラスの実状に応じて展開出来た。 ・人権学習会として本年度は戦後70年の節目で被爆ピアノコンサートを実施。保護者も参加し生徒共々平和学習の大切さを確認をする事が出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権問題が多様になり、それぞれの問題に如何に対処していくべきなのか分かりにくくなってきた。その時々が一番大切なものを見極め研鑽・研修の機会を設けていきたい。 ・保護者にも参加してもらえ学習会は継続していくべきである。 ・保護者の理解、協力をさらに得る努力を進めて欲しい。 	
	教職員と保護者の人権意識の高揚と連携	・時宜的な研修会や学習会の企画。 ・生徒、教職員、保護者との共通した意識とそれに対する啓発活動の具体化。	B				
教育相談 特別支援教育	教育相談の充実	・スクールカウンセリングカウンセラー派遣事業の有効な活用に努め、精神的な不安を抱える生徒への相談の充実に努力する。 ・校内教育相談体制の構築に努める。 ・外部機関（教育研究所・医療機関・スクールカウンセラー等）との連携を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「配慮を要する生徒」についての報告書集約システムも稼働し、外部機関との連携も徐々にできるようになったが、校内教育相談体制は不完全である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「配慮を要する生徒」の情報共有のための報告書のまとめと更新を早めに行い、諸会議毎に確認を行なう。また、カウンセリングを受けた生徒の担任とカウンセラーとのコンサルテーションを出来る限り行う。 ・引き続き特別支援教育支援員制度の有効利用と、発達障害理解のため、外部講師による研修会を早め実施し、年度当初の様々な調査や中学校からの情報等も鑑み、早い時期に生徒の状況把握を行ない、個々の支援・指導方法を早めに確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーの必要性が大きいと思われる。継続して、カウンセラーを導入してもらいたい。
	特別支援教育の推進	・発達障害等により特別な教育的支援を必要としている生徒の実態把握に努める。 ・学習活動や生活全般にわたる支援の促進と充実を図る。 ・特別支援教育支援員制度を活用して、効果的な授業中の学習支援に努める。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の学級で発達障害が疑われる生徒の細かな把握と支援法の実践はできたが、多くの学級が未だ教員の感覚的な把握に終わっており、個々に応じた支援までには至っていない。また支援員による授業中の学習支援によって、要支援生徒だけではなく学級全体の授業に対する取り組みにプラスになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反省を生かし、来年度の年度当初に、研修会や中学校訪問等を実施し、情報等を早く得て、授業等の支援や指導方法に役立て、環境を整えて欲しい。 	
保健・安全管理	生徒の心身の健康状態の把握と対処	・各検診の事前、事後指導の徹底。 ・学校保健委員会を通した生徒の身体状況、健康状態の共通理解。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各検診の事前、事後指導は出来ている。 ・学校保健委員会、研修等で共通理解を深めた。結果をもう少し応用していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら身体状況の諸問題に興味を持つて改善しようとする意識を持たせる為に、指導者側の意識の向上と、知識の深化を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・尿検査等の提出率が良くなっているのは、とても良いことである。取り組みの成果であろう。ただ、遅刻生徒の提出が遅れることが残念。 ・自己管理のできる生徒を育てて欲しい。
	危機管理体制の整備と安全教育の推進	・校内救急体制マニュアルに基づく緊急時の適切で迅速な体制の共通理解。 ・生徒指導部と連携して生徒を対象とした安全教育の実施。	B		<ul style="list-style-type: none"> ・校内救急体制マニュアルに基づく緊急適切で迅速な体制の周知徹底。職員、生徒対象に講師を招き熱中症対策講座や救急手当てについての講座を開き熱中症の対処法の理解を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への働きかけを出来るよう改善したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活アンケートからも朝食を食べないで登校する生徒が多い。保健体育科や家庭科の授業と連携して、食育についてもっと考えさせる機会を持つことが大切である。
	食育教育の推進	・生徒の実態把握に基づく全体推進計画の策定 ・生徒、保護者への啓発活動。	B		<ul style="list-style-type: none"> ・保健や家庭科の授業で食事の摂り方や栄養の重要性などを学習した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への働きかけを出来るよう改善したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活アンケートからも朝食を食べないで登校する生徒が多い。保健体育科や家庭科の授業と連携して、食育についてもっと考えさせる機会を持つことが大切である。

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果 ・分析）及び改善方策
教職員の研究・研修	生徒の実態・ニーズを踏まえた研修の実施。実践につながる研修講座への参加。教科の枠を超えた授業公開・授業研究の実施	・教科・分掌の研修講座や研究会への積極的な参加奨励と研修内容の共有化を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究所の研修講座等への参加を教科や分掌等に促し、参加してもらったが、研修内容の共有化を図るための工夫が必要である。 ・学習・生徒指導・進路指導等の研修を学年単位で実施した。 ・保護者に向けての公開授業を実施した。また、初任者の研究授業を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの研修講座への積極的な参加を促すだけでなく、研修内容の共有化を図るために、報告会や研修資料の閲覧ができる方途を考えることが必要である。 	
		・学習・生徒指導・進路指導・防災等に関する研修の実施 ・授業公開・授業研究の実施	B			
学校事務	教育目標に沿った円滑な学校運営を行うための教育環境の整備	・関係各部署との連携を図り、生徒が安全に学べる環境であることはもとより、学習しやすい学校であることを目標とした環境整備を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員トイレの一部洋式化等育友会の協力もあり職員から要望があった案件については出来る限りの対応を図ったが、懸案である弓道場移転等解決出来ない事案も残った。 ・就学支援金において対象生徒が増えたためか、連絡の行違いが発生し関係各者に迷惑をかけてしまう事案が発生した。問題無く解決には至ったが、丁寧かつ迅速な対応を出来るような管理体制が出来なかった。 ・昨年度の漏水工事や生徒トイレ改修等により光熱水費の使用量等については削減を図れたが、空調を使用していない冬季にデマンドが警報を発生し原因が解らず結局デマンド値を上げることで解決する事になった。冬季のデマンドについてはあまり聞かない現象であるので原因について今後も検討していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務室内での情報等の共有を図れるような文書や物品の管理体制が出来るように更なる工夫を行っていくことにより丁寧かつ迅速でわかりやすい説明が出来るように職員間でスキルアップが出来るようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経費削減等の問題もあると思うが、本校の抱える問題に優先順位を付け、順次解決していくことを望む。
	丁寧な接遇及び的確な文書・物品の管理	・昨年度の反省点を生かし、来客や電話応対について、親切丁寧かつ迅速であり、そしてわかりやすい説明を心がける。また、そのために文書及び物品管理を的確に行えるように管理体制を整理する。	B			
	学校運営経費及び光熱水費の適切な執行管理	・今年度の予算も昨年度同様分での配当予定である。様々な値上げに対しての予算的な措置は行われていないため、状況は厳しい。より一層の削減、節電・節水の慣行等、省エネについての啓発に努め、予算の執行を適切に行う。また、生徒の活動をより多く支援できるような徴収金等の執行に努めたい。	B			
広報・渉外	学校の教育活動の紹介	・広報誌「紅葉」の発刊及びHP等による広報活動の推進 ・本校HPの中学生や卒業生に対する内容の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2回の発刊とも早い段階から積極的に編集を始め余裕を持って作成できた。 ・オープンキャンパスの情報の多くをHPを利用することができた。 ・授業公開時に参加者が騒がしくなり来年度以降方法等について見直しが必要。 ・名簿管理、情報の発送等業者を使うことでとても円滑になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会との連絡を今後も密にしていく。 ・同窓会の情報もHP上でやっていく。 ・内容の再検討が必須。 ・業務を同窓会役員主体にシフトしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPを利用し、もっと本校のPRをして欲しい。
	保護者・地域・関係諸機関との連携強化	・オープンキャンパスの内容の再検討。特に生徒の様子を紹介できる工夫について考える。	B			
	同窓会の組織	・同窓会組織の整備、名簿管理の業者委託。	B			

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果 ・分析）及び改善方策	
図書館教育等	図書を活用した学校生活の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の向上に役立つ図書をそろえるため、教員からの推薦図書を充実させる。 ・授業をサポートできる図書館の役割を推進する。 ・学校行事（朝の読書・本を語ろう会等）の活性化をはかる。 ・図書館だより及び新着図書紹介等の内容を充実させ、利用者を増やす。 ・図書検索システムを活性化させる。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の本の寄贈もあり、幅広い分野の図書が増え、授業、学校行事等でサポートできるようになった。 ・学校行事（朝の読書、本を語ろう会等）では、広報活動や図書委員会活動の活性化により、読書が習慣化しつつある。 ・図書館だより等の内容の充実・工夫などにより定期的な図書館利用者が増えた。利用者の増加・読書習慣の定着が今後の課題である。 ・図書検索システムが利用可能になった。 ・Web ページを充実させ、随時更新し、より利用しやすいものにした。情報機器の活用を増やすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書購入における、綿密な情報収集・選書、図書紹介等を工夫する。 ・各行事においては事前指導を徹底し、内容の更なる検討、図書委員会活動の内容を深める。 ・学級文庫の活用促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書や本を語ろう会等、継続して欲しい。 ・学校 HP が、今年度随時更新され、利用しやすいようになったことは良いことである。
環境・美化	校内施設の保全、安全・防災環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・美化関連用具、及び清掃用具の点検保全 ・四季折々の花を絶やさない美化活動 ・救助袋を使用した防災学習・訓練の実施 ・「きれいな学校・西和清陵高校」をスローガンに校内美化の意識を高める ・安全点検を日常的に行うことにより、危険箇所や潜在危険を早期に発見し、事故災害の可能性を除去する 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃用具の不具合が多かった ・危険な生徒用機の修復と椅子の交換 ・チューリップや葉ボタンなどの植栽 ・救助袋を用いた避難訓練を引き継いだ ・「きれいな学校」への意識が高まったのか、目立つゴミが少なくなった ・安全点検を引き続き行ったが、対処に緊急を要する危険箇所は発見されなかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほうきの先端やモップ部分の交換、窓用水切り等の新規購入など清掃用具の整備が必要。 ・スローガン「きれいな学校」のため、拭き掃除の頻度を高める。 ・安全点検の定着化 ・地域により貢献できるよう通学路清掃の機会を増やす。 ・ゴミの分別回収の意識の涵養を普段から行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒達に、自分の学校という意識を持たせる。公共物を大切にす美化意識を高める。
	地域に「開かれた学校」となり地域コミュニティにおける役割を担う	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路清掃について、地域の行事の一つとして定着させるとともに、生徒が地域の人たちとコミュニケーションをとることができる体験の場にする ・ゴミの分別回収の啓発と徹底 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・通学路清掃時、地域の方から挨拶をしてくださることが増えた ・分別用のごみ箱に対象外のゴミが混じっていることがあった 		
第1学年	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・時間厳守の徹底 ・身だしなみの指導の徹底 ・礼儀や正しい言葉遣いの定着 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・入学当初に比して基本的生活習慣は改善されたといえるが、まだまだ不十分である。 ・家庭と連携をとり、基礎学力と判断力の養成につとめたが、一部の生徒に関しては十分に成果があげられていない。 ・本校の生徒としてあるべき姿、行動、生活の定着を目指したが、部活動の入部者も少なく、帰属意識の高揚にはまだまだ課題もある。また、自己の将来を見据える意識に乏しい生徒も多く、今後の指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携は、さらに必要であるが定例の懇談以外の機会や二者懇談を増やす必要がある。 ・学年集会を効果的に開催し、集団の中の個人としてのあり方を深く考えさせる機会を増やしたい。 	
	基礎学力と判断力の養成	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の定着 ・授業を大切にす意識の育成 ・規範意識の定着 	B				
	帰属意識と愛校心の育成および学校生活での目標設定	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活の理解となかま意識の育成 ・学校行事や課外活動への積極的参加 ・将来を見据えた学校生活の充実 	B				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果 ・分析）及び改善方策
第2学年	中堅学年としての 自覚と基本的生 活習慣の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の向上と規律ある行動の確立 ・基本的な生活習慣の充実 ・修学旅行等の学校行事を通じて集団意識、愛校心の高揚を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識が向上し、規律ある行動が徐々に取れるようになった。遅刻・欠席等、基本的な生活習慣の充实在課題である。 ・修学旅行を無事に終え、他の行事に対しても積極的に取り組めるようになった。 ・授業を大切にしているが、家庭学習に対する意識が低い。 ・進路実現に対する意識や具体的な取り組みが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行等の行事を通して培った集団の力を学習や生活で生かし、全体を高めさせたい。 ・個人面談等を通して早期に具体的進路目標を設定させ、実現のために情報収集を活発にさせる。 	
	進路実現に向けた 学習の習慣づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を大切にしている態度の涵養 ・確実な家庭学習の実現 ・自己能力の認識と開発 ・進路に関わる情報の収集 	B			
第3学年	最高学年としての 自覚と社会の一員 としての自覚の深 化	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上 ・自他の生命の尊重と他者への思いやりなどの道徳性を育てる ・学校行事などへの積極的、主体的参加 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣、規範意識など社会の一員として自立できるように指導した。多くの者の意識が変わった。 ・進路目標を早期に設定し、家庭学習や促進講座にも意欲的になり進路実現に関わる様々な行事に積極的に参加した。 ・一方、なかなか進路目標を設定できない者、進路決定後に気持ちのゆるむ者がいたのも事実である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路上の目標設定が学校生活全般を高めることにつながるため、進路目標の早期設定とそれに向けての取り組みを学年だけでなく学校全体の重要課題として取り組むことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業者が、205名ということですが、35名はどのような進路へ変更したのか理由を教えて欲しい。転学が三分の二、退学が三分の一で、本校で学習する意欲が無くなり変更した生徒も多い。
		希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の早期設定 ・家庭学習の充実と促進講座への意欲的な参加 ・進路決定後の指導の充実 			